※令和４年度以降入学生用

学校番号	210

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新編「数学Ｃ」　（啓林館）						
副教材等	アベレージ数学Ｃ　（啓林館）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学Ⅲは、数学ＩＡⅡＢに比べ、範囲も広く、難易度もかなり高くなります。また、数学ＩＡⅡＢの内容を発展させた分野がたくさんあります。毎授業内容の復習をするのはもちろんですが、数学ＩＡⅡＢの復習を各自でしておく必要があります。

２　学習の到達目標

ベクトル、複素数平面および平面上の曲線についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。	事象を数学的に考察したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている	数学の論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的根拠に基づいて判断しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	1.ベクトル	ベクトルの定義や位置ベクトルの特徴について理解する。ベクトルの内積、ベクトル方程式の意味を理解し、それらを応用できるようにする。	a: ベクトルの計算法則を修得し、ベクトルの演算ができる。 b: ベクトルの和・差・実数倍についての意味から、図を用いて事象を考察することができる。 c: ベクトルの概念を理解し、事	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察

※令和４年度以降入学生用

			象の考察に活用しようとする。			
2学期	2.複素数平面	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	a: 複素数の方程式を満たす点全体について考察し、その意味を考えることや計算で求めることができる。 b: 複素数の乗法、除法の図形的意味を理解し、活用することができる。 c: 複素数平面を考えることにより、複素数の図形的側面が明らかになることを理解しようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
3学期	3.平面上の曲線	平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	a: 焦点や頂点の座標などから 2 次曲線の方程式を求めることができる。 b: 軌跡の考えを利用して、条件を満たす 2 次曲線の方程式を求めることができる。 c: 2 次曲線を解析幾何学的な方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度